

あおがき

No.176

発行／大分大学教育学部附属中学校 PTA
 発行責任者／澤野 充幸
 編集／PTA 広報委員会
 印刷／株式会社 明文堂印刷

「修学旅行」in広島・北九州 ∞ ～2年生の極意へ～「け・じ・め」

12月1日（木）～3日（土）の2泊3日で、2年生が広島、北九州方面に修学旅行に行きました。1日目の原爆ドームや広島平和記念資料館では、戦争の悲惨さと平和の大切さについて、2日目の宮島では、厳島神社の建築物等から歴史や文化について、学ぶ機会になりました。また自主研修では、一般の方に「きちよくれ大分！魅力発信プロジェクト」で作成したパンフレットを説明しながら配布しました。最終日の北九州グローバルゲートウェイでは、英語を使った体験活動を通して、英語の楽しさを体感できました。

今回の修学旅行で学んだことを、今後の学校生活に役立てて欲しいと思います。

原爆ドーム(1日目)



原爆の子の像(1日目)



出発式(1日目)



広島平和記念資料館(1日目)



夕食バイキング



班長会議



宮島フェリー内(2日目)



厳島神社(2日目)



宮島大鳥居付近(2日目)



宮島散策(2日目)



北九州グローバルゲートウェイ(3日目)



解散式(3日目)



門司港レトロ散策(3日目)



令和
4年度 青

11月2日(水)

コロナ禍の中で開催された
青垣祭も今年で3回目。
活動が制限される中で
昨年からまた工夫を重ねられた
文化祭となりました。
今年のテーマは「origin」。
素晴らしい発表に客席から
は大きな拍手が送られてい
ました。

origin



青垣祭テーマ

orig

中学生生活最後のクラス合唱



3年A組 『決意』



3年B組 『信じる』



3年C組 『予感』



3年D組 『ひとつの朝』



3年A組 『With Singularity』

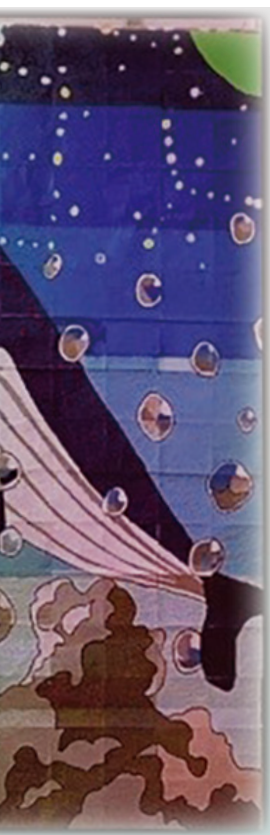


3年C組 『愛の対象』

3年

垣祭

iiichikoグランシアタ



合唱部



男声合唱団



英語弁論発表「Last gifts from my grandpa」



アクトクラブ活動報告

gin



ディベート同好会 出張即興ディベートin青垣祭



3年B組『灼熱大陸』



3年D組『ファミリーヒストリー～家族のカたち～』

動画制作

青垣祭は体育大会と並ぶ附属中学校の2大行事のうちのひとつです。コロナ禍以前の青垣祭は豊富な企画内容で2日間にわたって開催されていました。しかし、コロナの影響によって内容は縮小・制限されたまま3年が経ち、コロナ禍以前の青垣祭を知っている学年はなくなりました。生徒たちは青垣祭の伝統を受け継ぎつつ新しい伝統を創り上げるという決意で青垣祭に臨みました。

「origin」のテーマには「起源」と「創造」という2つの意味があります。「コロナ禍での新しい形をスタートする」、「全員のアイデアや意欲が泉のように湧いてくる」という想いが込められています。

附属中学校の先輩方が繋げてきた伝統を次の時代に繋げたい、という想いのもとに模索を続ける生徒たちの姿に心を打たれました。附属中学校の今までの伝統と新しい伝統が橋渡しされた素晴らしい1日となりました。

総務委員会

コロナ禍ではありますが、オールフォーオールキャンペーンを行いました。保護者の方々の高い参加意識とご協力に支えられ、とても充実した活動ができました。たくさんのご協力をありがとうございました。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

9/2九附連小倉大会PTA三役会・PTA会長会・PTA副会長会（オンライン参加）、9/11市P連第28回とわの会、10/4-7授業参観週間 受付、10/12第2回総務・常任委員会、中間監査、10/26第70回日本PTA全国研究大会山形大会（オンデマンド配信）、10/28市P連第2回単位PTA会長研修会、11/2青垣祭受付・案内、11/12学校説明会受付・案内、11/27県P連研究発表会、12/8西部地区PTA協議会～副会長会～、12/17.18第67回日本PTA九州ブロック研究大会おきなわ大会、2/5第31回大分県PTA連合会研究大会 杵築市大会、2/8第3回総務・常任委員会・第2回合同役員会、2/11市P連役員研修会、2/14新入生保護者説明会、3/3卒業式、3/30離任式



学年委員会(3年部)

3年部は学年テーマ「Growth Ring」のもと、子どもたちを真ん中に、保護者、先生方とのつながりを志向してきました。学年PTAや学校説明会での受付、卒業記念DVD制作にかかわる手続きなど、学校内外で連絡・調整の一端を預かり、また今年度独自の取り組みとして、学年通信を季刊で4号お届けしました。

中学生になって子どもたちはますます親の手を離れ、私たちがまたその役割から自由になりつつあります。親としての自分を省みることも、もう、そう多くはない日々。そんな中で出会うPTAは、「Parent」としての自分を再起させ、他では得難い非日常をもたらしてくれました。学年委員は名の通り、「学年単位の行事のサポート」「先生と保護者のパイプ役」となり、活動に参加する有用感や充実感を受け取ることができました。

親も学び、成長し続ける、そんな開かれたPTAで、子・親・先生三者のあいだを心地よく感じられた一年。皆さまとのご縁に深く感謝申し上げます。



学年委員会(1年部)

去年の4月、親子共々、どんな生活になるのか、期待と不安がまじりあって始まった中学校生活でした。私たち学年委員は、なかなか学校に来ることができない保護者の皆様に何か保護者同士の交流ができないかと思い、保護者懇談会をコロナが少し落ち着いた11月に1日1クラスという制限で開催する事にしました。「初めまして」の保護者が多い中で短い時間でしたが、先生方のご協力もあり、学校や家庭での悩みや今どきの中学生の情報を知る事ができ、有意義な時間になったと思います。また、その場で出た意見を参加できなかった保護者の方にも共有できるよう通信を発行しました。もっと、保護者の方が子どもたちの様子や学校の事を知る機会を作りたいのですが、そういった企画を立てられず少し心残りの1年間でした。

子どもたちには、来年度こそはなにも制限なく中学生だからこそできる経験をしてもらいたいと願います。

最後になりますが、1年間、子どもたちを見守りご指導いただいた先生方と、PTA活動にご協力いただいた保護者の皆様に心よりお礼を申し上げます。



学年委員会(2年部)

2年部では「『Flexibility』～変化に対応する力を～」をテーマに活動しました。

今年度もコロナ禍にあり、保護者間の交わりが少ない中、少しでも思いを共有したいと考え、10月、アンケート「親子のコミュニケーションについて」を実施しました。

男子では約5割、女子では3割弱のご家庭でコミュニケーションが減っているように感じている、という結果でした。その中でも「コミュニケーションをとるために各家庭で工夫していること」の自由記述回答では、同じ空間で話しやすい雰囲気や時間を作る、共通の趣味や話題を取り入れる、など多様な対応を聞かせることができました。アンケート結果はさくらメールにて、できるだけ多くの対応例をお知らせいたしました。12月、修学旅行の出発式では予防対策を講じながら無事に出発を見送ることができました。次年度に向けて、1月進路講演会（オンライン開催）を実施しました。

昨年引き続き、PTAがオンラインに変更になることが多く、懇談会での交流ができない中ですが、活動が少しでも保護者の方々にお役に立てれば幸いです。1年間活動にご協力くださいました先生方、保護者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

環境委員会

花苗の植え替えを9月、11月、2月に行い、花の手入れ、水やり、プランターの維持管理を、2年部が9月から11月、1年部が11月から3月に行いました。また、10月に中学校内女子トイレの汚物入れ破損チェックを行いました。オールフォーオールでは9月から11月に2年生の保護者53名、11月から3月に1年生の保護者57名の方々に水やりのご協力をいただきました。11月にはクリスマスオーナメントの飾り付けを行い、12月に撤去を行いました。また12月は西部地区人権教育推進協議会の校外研修にも参加させていただきました。

コロナ禍で日々環境が変化していくなか、子どもたちが共に助け合い、認め合い、成長していったように学校の花たちも一生懸命咲き揃ってくれました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で例年通りとはいきませんが、先生方をはじめ総務委員会の方々、保護者のみなさま、PTA事務の方、守衛さんなど多くの方のご協力です。心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



生活委員会

生活委員会は「培おうあいさつの習慣 高めよう安全意識」のテーマのもと、後期も引き続き活動を進めてまいりました。

後期の主な活動は、登下校指導、授業参観時の見回り、青垣祭当日の会場周辺警備でした。まず、登下校指導では、参加して下さった保護者の方のアンケートを基に、登下校での問題点や気づきを部内や学校と共有するように努めました。ご家庭でも交通安全への意識をご指導いただければと思います。登下校指導での生徒の様子、危険箇所を「生活委員会だより」に掲載しました。登下校指導の際、気持ち良く挨拶をする子どもたちの様子を知る事ができ、長引くコロナ禍においても附中生としての自覚を胸に健やかに成長している姿をととても誇らしく思いました。つぎに、授業参観時の見回りは、参観中の保護者の方に感染症対策マナーを守っていただくよう、各教室を見回りました。コロナ禍における今年度の新しい活動内容でした。最後に、青垣祭当日の会場周辺警備は、周辺での乗降車による事故防止と生徒の誘導のため警備を行いました。事故や大きな困りはありませんでした。

今年度も新型コロナウイルス感染症のため、運動会の保護者観覧は3年生保護者のみの参加となりました。しかしwithコロナへの流れとともに、昨年度より予定通りに活動が進んだことが多かったと感じております。新型コロナによるさまざまな規制は続いていくことが予想されますが、今後も学校・地域・家庭が協力しながら、子どもたちの安心・安全のために必要な活動を継続していきたいと思っております。1年間、生活委員会の活動にご協力いただき、ありがとうございました。



文化研修委員会

今年度の年間テーマは「気づき～変化するもの、変わらないもの～」でした。かかるテーマの下、11月16日に第1回生徒向け講座(サタスタ)「キャッシュレスを学ぼう」を大分県金融広報アドバイザーの若松亜希子氏を講師にお迎えし開催いたしました。(次のページを御参照ください)

1月11日に第2回生徒向け講座「本気の遊びが感性を育む」を大分県立美術館 学芸企画課教育普及室長 榎本寿紀氏を講師にお迎えし、日常にあるいろいろな「美」を発見することで、モノを視る目や感動・好奇心を触発し、より人生を豊かに楽しめる提案のひとつとして開催予定でしたが、感染症拡大の影響を考慮し残念ながら中止となりました。

ありとあらゆるモノがインターネットにつながるIT社会へと変化している現在ですが、元来、人間は人と人の中にある社会的な存在でもあります。学校という集団の中で他者との関わりを大切にしながら、いかに「非接触」と「多様な接点の維持」を同時に可能にし、学びを発展させていけるかが今後の課題になるかと思われます。

変化するもの、変わらないものを大切に本質を見極めながら、これからも子どもたちの成長を社会全体で見守っていただけると願います。

校長先生、教頭先生をはじめ先生方、そして会員の皆様、PTA活動にご理解ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

広報委員会

今年度の年間テーマ「繋ぐ(学校～生徒～保護者を、そして過去～未来へ)」を目標に、感染症対策を講じながら、少しでも学校や生徒の様子がお伝えできるよう取材を行い、「あおがき」175,176号の企画・編集・校正・発行を行いました。今年度より広報委員の負担軽減のために行事の撮影は行わず、学校専属写真業者に写真を提供してもらい、選定作業から行いました。少し寂しい思いもありましたが、年数回の作業で広報誌を作成することができました。PTA活動報告書「まなび」の廃止に伴い、各委員会活動報告を広報誌に掲載してもらい形に残るようにしました。また学校ホームページに広報誌のアーカイブを作成してもらい、広報誌をいつでも閲覧できるようになりました。(個人情報保護のため生徒の名前は消去しています)その他、SDGsの観点から広報誌は再生紙を利用しました。8月、校外研修「おおいた人権フェスティバル」に参加しました。1年間ご協力いただき、ありがとうございました。

2月8日第2回合同役員会にて、校長先生から役員へ、サプライズで演奏のプレゼントがありました。素敵な演奏をありがとうございました。



PTA主催 サタスタ (11月16日)

豊かで深い学びを提供し、創造性を育てる学習講座「サタスタ」がありました。

第1回目は、大分県金融広報アドバイザーの若松亜希子さんが講師を務め、「キャッシュレスを学ぼう」がテーマ。希望者約20人が参加しました。

すごろくに見立てたゲーム形式の買い物に取り組み、現金やプリペイドカードを使うシミュレーションに挑戦。現金、プリペイドカードそれぞれの長所と短所について意見を出し合いました。若松さんは「カードは現金と同じ。大切に扱きましょう」と呼びかけました。参加した生徒からは

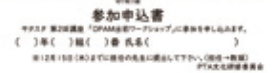


「自分の情報を入れておかないといけないということを初めて知った。バスに乗るためにカードを使っているのだから、きちんと入力しようと思った」と話していました。若松さんによると、中学生にキャッシュレスのテーマで話をするのは珍しいようで、「近い将来、高校生になったら確実に全員が使うことになる。現金と同じように、上手に、賢く使えるようになってもらいたい」と話しました。

サタスタとは

本年度からPTA文化研修委員会が取り組む希望者向けの学習講座。昨年度までは学校主催で行われ、以前は土曜日に開催していたことからサタデースタディー、略して「サタスタ」と呼ばれて定着したといわれています。

授業で学ぶ内容以外のことを学べる貴重な機会。来年度もぜひ、積極的に参加してみてください！



※第2回サタスタ「OPAM 教育普及出前ワークショップ」は、感染症拡大のため中止となりました。

PTA会費で応援 観劇教室 (10月6日)



子どもたちに本物をという趣旨で、観劇教室がありました。今年は東京演劇集団風による「ヘレン・ケラー」を鑑賞しました。体育館に巨大な舞台が設置され、鑑賞前には舞台装置や照明音響機器を実際に触り、劇団の方から説明を受けていました。コロナ禍のため3年生のみの鑑賞でしたが、来年度は全学年での鑑賞を目指しているそうです。どうぞお楽しみに。



本物の水が井戸から湧き出るシーン

制服検討委員会 (9月22日)

昨年5月に生徒による校内制服委員会が発足し、制服の新たな歴史をつくるため、様々な活動や討議が重ねられてきました。取材日の全体討議では全クラスがオンラインで繋げられ、はじめに前PTA会長薬真寺さんより「社会における制服の意義について」大分銀行を例に中身と同じくらい見た目は大事!などの講義を受けました。

この日の議題は「Fマーク刺繍が必要かどうか」でした。サンプルの制服を着た委員会の生徒が内容を説明しながら司会進行を務め、各教室からはコストを考えた意見、卒業後も着られるとSDGsを意識した意見、統一感や愛着がある意見などが出されました。伝統ある制服を時代にあった制服へ、生徒の思いが込められた新しい制服は、令和5年度4月から始まります。

※詳しい活動内容は、学校ホームページ「制服検討委員会」をご覧ください。

学級討議の様子



鴨池中オンライン交流会 (11月22日)



◀総合進行(生徒会・生活委員)
A~Dグループそれぞれの
司会進行の様子

各学級
の様子



附中の「カジュアルデー」と同様、鹿児島市立鴨池中学校でも「鴨池TPOの日」に私服登校が実践されているようです。全校生徒でのオンライン交流は始めてのことでしたが、3学年のA~D組が縦割りに分かれ、全クラスが画面に映し出され、タイムラグなく交流をする様子は、圧巻の光景でした。私服登校の目的意義、実際の様子、アンケート結果、今後の課題など活発な意見交換が行われていました。

冬休み前の12月20日に各学年のGIGAサポからネットモラル授業がありました。

3年生 (GIGAサポ3名)

GIGA サポ3年生の授業では、「受験期におけるICTとの向き合い方」を軸に行いました。どれだけ知識を持っていたからといって「正しく使える」とは限らないということを改めて確認できたと思います。「受験とICT」では、どのように扱えば効果的なものになるかという点を確認しました。高校生になるとスマホを持つ人が増えると考えられるため、適切な利用をしようと自覚しながら授業に参加していました。

2年生 (GIGAサポ5名)

ネットモラル（倫理や道徳）を学習内容にしました。その中でも身近な肖像権の侵害についてワークシートを用いながら皆で考える機会となりました。友達と撮った写真を無許可でSNSにあげてしまったという事例です。アップロードしてしまった写真は消去するのが難しいこと、肖像権の侵害から訴訟に発展した例があることが紹介されました。法律を知り、ルールを決めて利用するよう呼びかけが行われました。

1年生 (GIGAサポ5名)

スマートフォンを長時間使用し続けることによって引き起こされる健康被害とSNSで起こりうるトラブルについて、GIGAサポがスライドを用いて紹介していました。中学生でスマートフォン所持率が急増すること、そして、10代のSNSトラブル被害の割合が高いことから、使用する私たち自身が気をつけるべきだと警鐘を鳴らしていました。今後は、実際の事例等を用いて、実践的な学びの場にしていきたいと考えています。



2年生の学年集会にて

カジュアルデーの日でした!

GIGAスクール2年目を終えて、この1年いかがでしたか？

「附中 ×GIGA」で、多くの生徒は端末を学習道具として正しく・より良く使うことができるようになりました。端末の使い方をめぐる様々な課題にもGIGAサポを中心に向き合っていることが一番の成果です。生徒が情報モラル学習を企画したり、使用規定をつくったりしました。また、学習会に講師を招いたり、職員研修に参加したりと主体的な活動もできました。これからの未来、ICTとどう共存すればよいかを考える風土作りの第一歩を踏み出せたと思います。

(研究主任 草場先生)

特集を通して感じたこと

・新型コロナウイルスは子どもたちに不自由な生活を強いました。しかし違う面を見ても、このコロナによる休校などがあったからこそ1人1台端末やオンライン授業などが全国で急速に広がったように感じます。約1年間広報の取材を通して授業や特別活動等で巧みにICT端末を使いこなす姿を近くで見て、その質の高さに驚き感心し、また誇らしい気持ちになりました。自宅でも課題や授業の振り返り、アンケート、時には部活のミーティングなどでICT端末を使う様子から、3年の間にずいぶんいろいろなことが出来るようになったことを頼もしく感じるのと同時に、便利なことばかり目を向けて、間違えた使い方やトラブルに巻き込まれていないか心配でした。家庭でも取り組むべきとは思いますが、ちょうど反抗期の子どもとネットモラルやルールについて話すというのも簡単ではなく、学校頼りになってしまうことは反省しているところです。GIGAサポの皆さんの「もっと信じて欲しいです。」という言葉がわが子の言葉と置き換えて、見守ることの大切さにも気づきました。勉強しているのか遊んでいるのかわかりにくいという心配はありますが、パソコンはリビングでしか使わないというルールを守っている限り、これからも子どもを信じて、目は離さずに見守っていきたくと思っています。これからGIGAサポとともに子どもたちがどのように発展していくのか楽しみです。(広報委員A)

・取材前、我が家では子どもからいかにICT端末を遠ざけるかを考えていました。取材の中で、草場先生もお子さんのスマホ管理が大変というお話を聞き、先生のご家庭も同じなのだと思えました。学校ではGIGAサポを中心に、生徒自らが情報モラルを学習し、お互いの意識を高めルールでなくモラルで守る取り組みを取材するうちに、親だからと上から管理しようとしている自分が恥ずかしくなりました。昨年の広報誌のアンケートにもありますように、有害なサイトをみていないか、ネットの誘惑に弱く睡眠時間を削りリズムが崩れそうなど、保護者の悩みや不安は尽きないと思います。ご家庭の事情や子どもの性格など様々な要因があり、コレをすれば大丈夫という正解はないように思います。我が家では、まだモラルで自らスマホを手放すことができないので、生活リズムが崩れたらスマホ時間の短縮というルールを作り、日々口論している状態です。ただ、取材を通して子どもたちが一生懸命自分自身で管理していこうと努力していることを知り、また「失敗しながら成長」「子どもたちを信じる」という姿勢の先生方を見て、最後は子ども自身が気付くしかないと思腹をくくって見守っていこうという気持ちになり、以前のようにイライラしなくなりました。取材をさせてもらって、本当によかったです。(広報委員B)

卒業生へメッセージ

学年主任 三村洋平先生

コロナ禍で色々な活動が制限される中学校生活でした。そのような中、将来の目標に向かい皆さんは素直に学び続けました。積み重ねた努力は自分の未来へとつながります。人生をより豊かにできるようにこれからも頑張ってください。

A 組担任 阿南幸一先生

皆さんは、この附属中学校で多くのことを学び、様々な経験を積まれたことと思います。この先も、自分の心に大きな夢をもって何事にも挑戦して欲しいと思います。希望に満ちた未来へ、羽ばたく若人に幸多かれと祈ります。

B 組担任 井田由紀先生

マスクに始まりマスクに終わる3年間、それは不幸ではなく、皆さんの純粋な瞳に注目できて、心づかいあふれる言動を共にして、幸せな日々でした。附属3年生の絆を忘れず、輝く未来へ向かってください。

C 組担任 永富健太郎先生

「もっと詳しく知りたい」と知的好奇心がいっぱいの皆さんと共に過ごすことができ、とても刺激的の多い1年間でした。いつまでも貪欲に、学び続けて下さい。これからの活躍を応援しています。

D 組担任 木梨祐司先生

共に過ごした3年間。あなたたちの優しさや強さに何度も助けられました。「優しさこそ、真の強さなり。」感謝と誠意を忘れず、どんな困難も一つずつ乗り越えましょう。未来へと羽ばたくあなたたちを応援しています。

副担任 草場博文先生

多くの人に支えられてここまで成長できたと思います。だから、これからの人生を「誰かのために…」と考えることができる人になれると思います。皆さんは「宝」です。これからも自分を自分の力で磨き続けてください。

副担任 矢治朋恵先生

3年間一緒に過ごせてとてもうれしかったです。コロナ禍で、私にとっても初めてのことであったので、皆さんと共に新たなことに挑戦した思い出深い3年間でした。いつかまた会える日を楽しみにしています。

文化部・同好会紹介



合唱部



美術部



茶道部



ディベート同好会



アクトクラブ

合唱部:九州大会出場 ディベート同好会:全国大会出場
おめでとうございます!

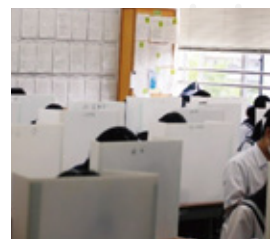
第10回科学の甲子園ジュニア全国大会出場

科学の甲子園ジュニア全国大会が3年ぶりに実地開催されました。(12/2～4 兵庫県姫路市 アクリエ姫路)。2年生の6名が全国大会に県代表として出場しました。結果は総合順位第9位という素晴らしい結果を残すことができました。



編集後記

広報委員と決まった4月、教務室に綴じてある過去の広報誌を見せてもらいました。昭和52年に校報誌としてスタートした「あおがき」は、昭和55年にPTA広報誌として引き継がれ、現在に至っているようです。この歴史ある広報誌の紙面には、子どもたちが白い歯を見せてキラキラ笑っている写真があり、少し切ない気持ちになりました。コロナが世界中に広まり、休校で始まった中学校生活。この3年間マスクを取れる日はこなかったですね。3密回避、制限、我慢…ばかりで、大人でも辛くストレスフルな毎日でしたが、子どもたちは悲しみや孤独感、やり場のない怒り、たくさんの感情があったと思います。取材で学校に行くたびに、子どもたちは本当に一生懸命で、頭の下がる思いでした。3年間立派に中学校生活をやり遂げてくれましたね。「よく頑張ったね」「ありがとう」「お疲れ様でした」を贈りたいです。そしてパンデミックの中、子どもたちのために奔走し、学びを止めず最先端の学びを与えてくださり、自主自律に向けて背中を押してくださった教職員の皆様に、心から感謝御礼申し上げます。最後にPTA会員や役員の皆様、ご協力ご助力いただきありがとうございました。



昼食の風景